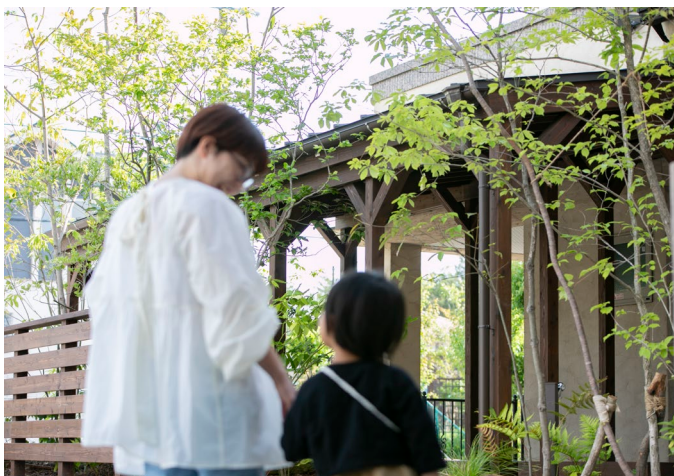


取組名称	「森と暮らす」山採りの木がつなぐ森と人が共生する豊かな地域未来をめざして			団体設立後の経過年数	10年
応募取組主体名称	フォレストニア	活動地域	愛知県瀬戸市	応募取組の活動年数	10年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

地域の森に自生する広葉樹「山採りの木」を地域の暮らしの中に移植することで、森の保全と地域資源の循環利用の取り組みを行っている。地域住民の関心の低い地域の森から山採りの木自体の高い価値を見出し、そこから森と庭、そして地域全体の経済に新たな価値を生み出す為の様々な活動を推し進めている。一方向の資源利用とは異なり、庭づくりから得た収益を森の整備や様々な森に関する活動に再投資することで、この取り組みを無理のない持続可能な仕組みへと実現化している。

実績の要旨

森の管理に困っている森の地主と森の資源が欲しい地域住人をつなぎ、双方にメリットのある形で森の整備が自動的に進むモデルをつくった。間伐活動と森の木の間引きとなる山採りの木の採取利用を主として、ジャングル化した一部の森を木漏れ日の落ちる明るい森へと変化させた。遺伝的多様性を持つ山採りの木を使用した庭を地域に点在させることで、生物多様性の保護につなげている。それらの取組と同時に、地域の人へ森への関心と理解と行動を促す為に小学校での森林学習や森ツアー、山採りの庭を作庭できる職人育成の為の講座を開催し続けてきた。

取組評価の要旨	環境への貢献	森間伐や山採りの木の採取により荒廃した森を再生し、生物多様性を保護。エネルギーロスと化学物質使用を削減し、樹木のCO2固定に貢献。
	社会・経済への貢献	山採りの庭づくりを通じ地域経済に新たな収益を生み出している。森林学習や職人養成講座を継続的に開催し、次世代の育成へも注力している。
	地域資源の活用	地域の森から採取した木・石・土・草等は地域の庭づくりに活用。間伐材は薪ストーブや木工作品・燻製商品等へ利用するなど森の資源を最大限活用。
	普及・汎用性	地域の人へ森への関心と理解と行動を促す為に森林学習や地域での森ツアーを実施継続。取り組みをSNS発信。山採りの木普及協会を設立。
	革新・ユニーク性	庭木の大半は養殖木が使用されている中、山採りの木へ着目し庭づくりへ使用。地域の森と庭の新しい価値創造への独自の取り組み。
	継続性	庭づくりで得た収益を森の整備や他活動に再投資することで持続的な森の活用を継続。地域住民や次世代の関心を高め継続的な活動基盤を確立中。

展望の要旨

地元瀬戸市で森と庭と地域の無理のない持続可能な循環成功事例を確立し、全国に広げていくことを目指しています。